人物紹介　　**土岐成生　先生**

生年月日　昭和２０年２月５日
現住所　夕張郡長沼町中央区
診療所　夕張郡長沼町中央南１丁目７番３１号　土岐歯科医院
本籍地　夕張郡長沼町市街地
出生地　夕張郡長沼町中央区
出身校　日本歯科大学
卒業年　昭和４５年
入会年　昭和５０年
開院年　昭和５７年１２月１０日

略歴
昭和３２年３月　札幌市立円山小学校卒業
昭和３５年３月　札幌市立向陵中学校卒業
昭和３８年３月　北海高校卒業
昭和４５年３月　日本歯科大学卒業
昭和４５年３月　日本歯科大学大学院入学
昭和４９年３月　同卒業及び３月２５日学位授与
昭和５０年５月２５日　奥様「紀子」さんとご結婚
昭和５１年３月１５日　長男成則さん誕生
昭和次男康通さん誕生
昭和６０年度　福祉厚生担当理事
昭和６３年度～平成２年度　監事

趣味　車・読書

土岐先生のエピソード（「岩歯だより」から）

１９８６．１０　岩歯だより創刊号「うちのおとうさん」より

うちのおとうさん　土岐成則

　うちのお父さんは、いいところもわるいところもあります。

　いいところは、本を買ってくれたり、ジュースをのましてくれたりします。

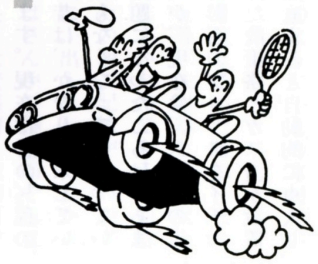
　わるいところは、食事の時、新聞をよんだり、ちょっとのことでも、すぐたたかれることです。

　うちのお父さんは、心臓が弱くて、すぐつかれたといいます。それでも、一生けん命仕事をがんばります。早くよくなってください。

１９８８.１１　岩歯だより第５号　私の趣味＆特技

１９９５.１０　岩歯だより第１９号　会員寄稿「我が家のルーツを探して」

私の趣味&特技



「私の趣味」

土岐成生

私の趣味はこれと言って、特にありませんが、しいて言えば歴史が好きで、特に郷土史には興味をもっています。

長沼町は昨年「開基百周年」を迎えました。この為の記念行事や催し事は数ヵ月に渡り取り行なわれ、盛大なものでした。

百年前の長沼は一望未開の原生林、あるいは湿原、沼沢の泥炭地であったと言う。戦後、一時日本経済が沈滞していた頃に町民より募集し、当選した「長沼小唄」や「長沼音頭」を当時の新進作曲家の吉田正が作曲し、市丸や榎本美佐江等の歌手によって、レコードに吹きこまれ、連日連夜、町内の空に流れ、石狩低地帯に埋もれた古代史を呼び起こすかの様に、馬追原野に響きわたった。

この「長沼小唄」の一節に「水にゆかりのクンネトー」とあるがこれは、町名の由来を歌ったものである。その場所は現在の北長沼付近で、昭和五十年の農業基盤整備の為、今では面影もないが、その沼のアイヌ名から取ったものである。その沼は細長い沼でアイヌ語で「クンネトー」と言う。

しかし、町名の長沼はアイヌ語で「タンネトー」であるのでこれは誤りである。「ク」と「タ」をいずれの時期かに誤訳して、そのままになったのではないかと考えられていたが、当時、北海道の探検家である、松浦武四郎の「夕張日誌」には、旧夕張川の探検の模様が記されている。その中には「タンネトー」及び「クンネトー」の二つの沼があると書いてある。

元和六年、デアンシュリスの「蝦夷図報告書」によれば、蝦夷にも海の様な大きい広い川があった。又、梅基道徳の「北海道交通史編」に石狩低地帯及び勇払低地帯を結ぶこの一帯は、連なる細長い海峡をなして、北海道は、これによって東北部と西南部に分かれ、石狩低地帯の大部分は当時、海水に満されていた事が、記されている。

この海峡の南の口を勇払(イ・フツ)、北の口を江別(イ・ブツ)、又、東の口を夕張(イ・パル)、西の口を漁(イ・チャル)と言った。この海峡の中心が、「馬都沼」と「馬追沼」となり、大小無数の沼や川を残して明治の夜明けを迎えたのである。これらを証明するかの様に、千歳市では、鯨の骨が、大きなもので発見されている。又、千歳線の美々駅付近の貝塚から「カキ」、「アサリ」、「ボラ」等の殻が出土されている。又、恵庭市では、水田より「錨」が、出土されている。かつて、船を網でつなぎ止めるのに使用したと思われる、長さ一～二メートル位の石（メンヒル）が、千歳市に保存されている。又、同じものが、長沼町の幌内神社に保存されている。長沼町でも、排水溝を掘っているときに地下四～五メートル下

から、当時「浮き」に使用されたと見られる魚具の木片が、発見されている。

本町の遺跡は、四十八ヵ所、これらは全て、馬追山（うまおいやま）の西側の丘陵地帯に集中して、馬追山の山頂部でも貝塚の殻が多く発見され、子供達が良く採集に出かけている。

この様な事から、この一帯は昔から、太平洋と日本海を結ぶ海路となっていて、アイヌ人の重要な交通路になっていたものと考えられる。これからも、色々遺跡をまわり調べて行きたいと思っています。

「私の趣味」

豊田道次

私の住んでいる長沼町は、現在でも四季を通じて虫捕り、魚釣り、山菜とりと、私がガキ大将の頃と同じように遊ぶことができる場所がたくさんある。

水田に引く用水路には、魚が住んでおり六歳の息子を連れて昼休みや休診日には、釣りに行きウグイ、フナなどを持って帰ってくる。近所では、用水路に出没する親子は、大変有名である。

子供の頃、クワガタは家の周囲のミズナラの木や柳の木にたくさん居たものであるが、最近は見つけるのが難しいので、夜、山の中の電球の下を捜す。しかし、やっぱり、樹液の出ているミズナラの木にクワガタを発見した時などは、なんともいえずにうれしいもので、「ヤッター!!」と心の中で叫んでいる。ゴルフ仲間からは「虫捕りの豊田」と異名をもらい、ゴルフバックには虫かごを常備する程、虫捕りが大好きである。

捕ってきた混虫のオスやメスを調べたり名前や習性を調べるのも楽しいものである。おかげで、我家には数十匹のクワガタ、その他の昆虫類、魚などと共同生活をしている。飼育するのは苦痛になることもあるが、息子と童心に戻り、自然の中で遊び、接することが私の趣味であり、ストレス解消法であり、且つ、生きがいである。

我が家のルーツを探して

土　岐　成　生

昨年、一通の封書が我が家に届いた。中を見ると「美濃源氏土岐サミット」が８月に岐阜県の瑞浪市に於て開かれるという案内であった。全国の「土岐」の名字の人が集まりルーツを探ろうと言う内容で、私の父と母は埼玉県出身で我が家のルーツが分かるのではと思い、８月の暑い中、名古屋を経由して出かけて見た。犬も死ぬと言うすごい暑さを経験しました。全国の土岐の名字の人が121家族が参加していました。会場に一同が集まり研究者の話を聞きながら、この121の「土岐家」のルーツをたどると最後は１つになるのだろうかと思い巡らして考えていました。

中世において美濃（現在の岐阜県）の国東部に位置する地方から発祥し、中央まで駒を進めて活躍した美濃源氏の主流、土岐氏である。美濃源氏はすべて清和天皇に発っするが、その中で主流をなす土岐氏は、源満仲の長男頼光を氏祖として派主した。代々美濃国国守を務める過程で平安末期の源光衡が土岐郡に土着して土岐氏が形成された様だ。其の後、この地方の地頭も務めるかたわら、鎌倉幕府の御家人となる。鎌倉幕府討幕の時に同じ清和源氏の足利家と行動を共にし、その功により足利幕府から美濃国の守護に任じられた。以後土岐氏は11代続いた。初代守護は土岐頼貞である。特に３代土岐頼康の南北朝動乱期の時代には、美濃、尾張、伊勢、３国の守護を務めるほど強大な勢力を誇った。幕府内で「土岐絶えば　足利たゆべし」と言われた事もある。その後戦国時代に至り11代守護、土岐頼芸が斉藤道三に美濃の国を追われる迄約200年に渡って美濃の守護として、君臨したのである。その間に土岐一族は、美濃国はおろか全国各地に100家以上にわたり分布したと言う。我が家のルーツを探ろうとしたが、結果的にこの様な長い歴史をたどって、たくさんの土岐家が出現し、全国的に広がり、残念ではあったが分からずじまいで帰ってきた。でもこの様な機会がもてた事は大変勉強になった。又この様な集まりがあれば再度参加してみたいと思っている。